

請求書の電子発行ってどんな効果があるの？

意外と知らない
電子化のメリットをご紹介！

— はじめに

近年、業務効率化やコスト削減、法対応などを目的に
請求書の発行を紙から電子に切り替える企業が急速に増加しています。

そんな中、電子化で業務改善できそうなイメージはあるものの、漠然としているために周囲に説明等もしづらく、
電子発行への切り替えやサービス導入には踏み切りづらいといった声も少なくありません。

本資料は、請求書の電子発行がもたらす**具体的な削減効果はもちろん、**
自社や取引先にとっての**意外と知られていない電子化のメリット**をご紹介します。

実際に電子化を始めた経理担当が感じているメリットも紹介しますので
電子化を本格検討される前に、ぜひ参考にしてみてください。

請求書の電子発行って、 実際はどれくらい効果があるの？

業務やコストが減りそうなイメージはありますが、具体的にはどれくらいの効果を得られるのでしょうか？



— 業務プロセスが「6つ→1つ」に変わる

請求書の発行を紙から電子に切り替えることで、従来の業務で必要だった様々なプロセスが削減されます。

具体的には、印刷や押印、取引先ごとの区分け、封入・封かん、投函といった「紙ならではの」6つのプロセスが不要に。（右図参照）

請求データが正しいことさえ確認すれば、その後の業務は電子化・自動化され、得意先までの送付がスムーズに完結するようになります。

プロセスの変化

Before（紙発行のプロセス）



After（電子発行のプロセス）



— 発送コストを「約57%」まで削減できる

請求書を紙で発行する場合は、郵送代や印刷代はもちろん、封筒代や紙代などの経費が必要になります。2024年10月以降は郵便料金が値上げされたため、郵送代が以前より増加しています。

電子化することで、紙や郵送に関する費用が一切不要になるため、発行件数が200枚/月の場合はコストを約57%削減できます。

なお、サービスを活用して電子化する場合、紙のコストがなくなる一方でサービス利用料が発生する点に注意する必要があります。『奉行Edge 発行請求書DXクラウド』の場合は利用料を加味しても57%ほどコストを削減することができます。

請求書発行数 200枚/月の場合
年間発送コスト比較

コスト（発送経費）	Before（紙発行）	After（電子発行）
2024年10月値上げ 郵送代	264,000円	0円
印刷代 ※控え込み	96,000円	0円
資材費（封筒、用紙） ※控え込み	40,800円	0円
人件費 ※時給2,000円で算出	468,800円	2,400円
サービス利用料	0円	370,800円
合計	869,600円	373,200円

電子発行の方が**約57%**コストを抑えられる

※『奉行Edge 発行請求書DXクラウド』を利用した場合。OBC調べ

【参考】

郵便料金は今後も値上げされる可能性が？

値上げの目的に「郵便事業の収支改善」が含まれていることから、
郵便事業の赤字が改善されるまで、複数回に渡って値上げが行われる可能性も考えられます。

出典：日本郵便株式会社WEBサイト よくあるご質問

2017年に通常はがきの料金を引き上げたのに今回も引き上げるのはなぜでしょうか。

郵便事業の収支を改善するため、定形郵便物の料金ほか、通常はがきの料金や特殊取扱料など、郵便全般の料金を引き上げることとしたものです。、ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

今回の料金引上げの理由は何ですか。

郵便サービスについて、日本郵便は、これまで、手紙文化の振興その他の郵便利用拡大のための取り組みや、機械化その他の生産性向上による業務の効率化に取り組んできたところですが、昨今のデジタル化の進展などにより、郵便物数は、2001年度をピークに大きく減少しており、今後も、右肩下がり傾向が継続していくことが見込まれます。他方で、人件費、燃料費などの上昇、協力会社への適正な価格転嫁その他の調達コストの増加など、営業費用の増加が見込まれるところではあります。

日本郵便では、引き続き、賃上げや適正な価格転嫁の推進、郵便利用拡大のための取り組みを実施していくとともに、更なる業務効率化の取り組みを推進してまいりますが、今後とも、郵便サービスの安定的な提供を維持していくためには、郵便料金の引上げをお願いせざるを得ない状況にあります。

こうした中、6月13日（木）に25g以下の定形郵便物の上限額を定めている郵便法施行規則の規定が改正されたことを受け、今回、郵便料金の改定を実施することとしたものです。

時間が経過するほどコスト負担が増加。はやめの対策がおすすめです

作業時間を「約99%」まで削減できる

紙を使った発行作業がなくなるため、これまで掛かっていた業務時間のほとんどを削減できます。

発行件数が200枚/月の場合、発行にかかる作業時間を約98%削減できます。これまでかっていた、印刷が終わるまでの待ちの時間や取引先ごとの仕分け作業、押印などの作業が一切不要になります。

また、今までより早く取引先に請求書が届くようになるため、取引先にとっても請求書の到着を待つ時間が短縮されるようになります。

請求書発行数 200枚/月の場合

1ヵ月あたりの作業時間比較

作業時間	Before (紙発行)	After (電子発行)
請求データの作成時間	1.2時間	1.2時間
印刷・仕分け・ 押印・封入・封かん	220.0時間	0.0時間
投函・送付	12.0時間	0.0時間
合計	234.4時間	1.2時間

電子発行の方が約99%作業時間を削減できる

※『奉行Edge 発行請求書DXクラウド』を利用した場合。OBC調べ

他にはどんなメリットがあるの？

コストや時間削減効果以外にも、自社や取引先にとってどんなメリットがあるのでしょうか？



— 経理の働き方が変わる

自社はもちろん、取引先の経理担当にとっての働き方が変わります。

従来は必要だった、プリンターや社印、封筒など会社にしかない備品がなくても、いつでも・どこからでも請求書を発行できるようになります。また、「請求書の到着が遅れてはならない」という思いから、これまでは絶対に休みを取れなかった作業日にも余裕が生まれ、プライベートの予定も調整しやすくなります。

取引先も同様に、場所や時間にとらわれない働き方を実現できます。電子化によって自分のPCに請求書が届くようになると、わざわざ出社して会社に届いた請求書を確認する必要がなくなり、自宅からでもすぐに請求書の確認作業を始められるようになります。



— 業務の質が上がる

電子化によって自社・取引先ともに業務の質が向上します。

自社の場合、例えば**請求書発行後に発生する管理業務の質**を上げることができます。請求書を電子で発行すると、メールやシステムに必ず履歴が残ります。**どの取引先にいつ請求書を送付したか、最新の請求書はどれか、などを瞬時に把握できる**ため、「請求書が届いていない」「再発行してほしい」といった取引先からの問い合わせにも瞬時に対応できます。

また**取引先の法対応**における負担を解消することもできます。サービスを使って発行する場合、たとえば『奉行Edge 発行請求書DXクラウド』であれば、サービス側でタイムスタンプを付与した上で、検索要件を満たすファイル名を設定して送付することができるため、**取引先が正しく・手間なく電子帳簿保存法に対応**できます。



実務担当者に聞いた 請求書を電子化するメリット

実際に請求書を電子化した経理担当は、どんな点にメリットを感じているのでしょうか？



封入封かん作業を約8割削減。

「先に請求書をメールやFAXで送ってほしい」という依頼が減った

人手に頼っている状況をなくし、取引量に左右されない生産性の高い業務環境の整備するために、請求書の電子化を開始。

約半年という短期間で運用を開始し、請求書は2024年6月末で約6割の電子化が完了。それに伴い、紙の請求書の発行枚数は1か月あたり約800枚に、封入封かん作業にかかる時間は10時間から2時間に減少。以前は、郵送を待ちきれない取引先様から「先に請求書をメールやFAXで送ってほしい」と依頼が多く負担となっていましたが、電子化に伴い依頼が減っています。

実は以前、折り続けるのが嫌になって紙折り機を導入したことがありました。しかし、封入封かんはなくなり、結局人手が必要な状況は変わりませんでした。根本解決のためには人手頼みの作業をなくしていくことが大切だと感じています。現在は効率化によって生まれた時間を活用し、これまでできていなかった仕事に取り掛かれています。



会社名：株式会社ティエルバイ

利用サービス：奉行Edge発行請求書DXクラウド

<https://www.obc.co.jp/bugyo-edge/invoice>

夜中までかかっていた作業が減り 「つらそうにしていた顔」がなくなった

利用していた債権管理システムの更新に伴い、営業事務が担っていた請求書発行業務の見直しも開始。請求書は約800社分あり、元となるCSVファイルを都度作りこみながら1件ずつ請求書を発行していたため、作成から発行までとにかく時間が掛かっていました。

メールによる電子送信機能を利用して請求書を一括送信することで、従来の送付方法と比較して大幅に業務の省力化ができました。

結果、請求書発行は作業時間が従来の4分の1に短縮され、電子送付も格段にスピードアップしています。夜中までかかっていた請求書業務が夕方以前に終わるようになり、営業の問い合わせ対応や営業支援に多くの時間を充当でき、会社全体としての生産性向上にもつながりました。



会社名：株式会社マイクロアド

利用サービス：  奉行Edge発行請求書DXクラウド

<https://www.obc.co.jp/bugyo-edge/invoice>

— おわりに

いかがでしたか？

請求書の電子化は「便利になる」「紙のコストが削減できる」とわかっているにもかかわらず、意外と説明しづらいものです。

「電子化をはじめたいけどうまく説明できない」そんなお客様に少しでも本コンテンツがお役に立てれば幸いです。

請求書を電子化するメリットのまとめ

業務プロセスが減る

6つ → 1つ

コストが削減できる

約57%

作業時間が削減できる

約99%

働き方が変わる

- ✓ 場所や時間を問わず業務ができる
- ✓ 取引先もいつでも請求書を受け取れる

業務の質が上がる

- ✓ 履歴管理や問い合わせ対応がスムーズになる
- ✓ 取引先が電帳法に正しく・手間なく対応できる

請求書の送付作業が「あっという間に」終わる！

電子請求書発行サービスのご紹介

奉行 Edge 発行請求書DXクラウド



主な機能

- 請求データ連携 (PDF/CSV取り込み・API連携)
- メールアドレス収集
- 請求書レイアウト作成
- 請求書WEB・メール配信
- スケジュール配信
- 配信状況確認
- 確認催促
- 郵送代行
- タイムスタンプ付与

紹介資料をしてみる